

令和7年度 学校評価書

幼稚園名： 焼津市立大井川西幼稚園

幼稚園においては学校教育法及び学校教育法施行規則により学校運営の状況について評価を行い、その結果を公表することが義務づけられています。つきましては、本年度実施した保護者アンケート及び教諭自己評価をもとに作成した学校評価書を公表します。

＜評価方法＞

- 下記項目による保護者アンケート及び教諭自己評価を実施し、回答を点数化したのち、その平均点により総合評価を判定しました。
※点数は左記のとおり＜A…そう思う（4点）／B…どちらかといえばそう思う（3点）／C…どちらかといえばそう思わない（2点）／D…そう思わない（1点）＞
- 項目1～20は保護者及び教諭が、21～45は教諭のみが回答しました。

No.	項目	平均点
保護者・教諭 同一項目	1 幼稚園に通うことを楽しみにしている。	3.8 /4
	2 安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	
	3 友達と一緒に遊び、友達と共に過ごすことを楽しんでいる。	
	4 遊びや集団生活に必要な『きまり』があることを知り、守ろうとしている。	
	5 様々な物事に興味、関心を示し、知的好奇心、思考力、感動する心が育ってきている。	
	6 自ら、好きな遊びを見つけて遊んでいる。	
	7 思いやりの気持ちや我慢する気持ちが育ってきている。	
	8 家族や幼稚園職員に挨拶をしている。	
	9 体を動かすことが好きになり、体力がついてきている。	
	10 園目標「明るく 優しく 元気な子」に近づいてきている。	
応保に護つ者へへの対	11 幼稚園は子どもの成長の状況を保護者に伝えている。	3.9 /4
	12 幼稚園は保護者が子どもの成長に気づくための機会（参観日等）を作っている。	
	13 幼稚園は子育ての悩みや相談に、丁寧に対応している。	
	14 幼稚園は保護者同士が親しく交流できる場となっている。	
に安つ全い対策	15 幼稚園は保育室、遊戯室、園庭等において園児が安全に過ごせるようにしている。	3.7 /4
	16 幼稚園は安全対策について園児及び保護者に知らせている。	
	17 幼稚園は地震や火災等の災害時の対応を明確にし、訓練等により園児が安全に避難できるようにしている。	
教諭項目	18 子ども一人一人の人権を尊重し、それぞれの長所を把握している。	3.9 /4
	19 教育要領に基づき子どもを保育し、適当な環境を与え、心身の発達を助長するよう努めている。	
	20 子どもの個々の発達段階に応じて、基本的な生活習慣を定着させるよう努めている。	
	21 保育の考え方について保護者と相違があった場合、その保護者の状況や考え方を受けとめたくうえで説明するよう努めている。	
	22 個々の家庭環境が違うことを考慮したうえで、その子どもに適切な保育を考え、行っている。	
	23 幼稚園の教育は子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っていることを認識している。	
	24 子どもの状況に合わせ、人的・物的な工夫をもって環境の構成を行っている。	
	25 子どもが思い切り遊ぶことができるように、子どもと一緒に体を動かしている。	
	26 一人一人の子どもに目を配っていたかを振り返り、自身の保育の課題を見つけている。	
	27 子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、子どもとの信頼関係を築く努力をしている。	
	28 時節に合った掲示物やコーナーによる室内環境作りに努めている。	
	29 子どもが快適に過ごせるよう保育室内を清潔に保っている。	
30 子どもが自発的に保育室内の環境を整える（遊び用具や掃除用具の片付け等）ことを促す工夫をしている。		
31 時間や提出物の期限を守っている。		
32 明日の保育に向け環境、教材等の用意をしている。		
環指助導に計つ画いて週案、幼児理解、環境	33 幼稚園教育要領及び自園教育課程を基に、実態に合わせた指導計画を作成している。	3.9 /4
	34 子ども一人一人の実態（発達の状況や興味の対象等）を把握したうえで指導計画、週案を作成している。	
	35 子どもの意欲を誘うよう十分工夫した環境構成がされた週案を作成している。	
	36 支援を要する子どもに対し、その子どもに適した環境を準備し、具体的な対応をしている。	
	37 補助教諭がいる場合、両者の役割や子どもへの援助の方法等をよく話し合い、計画を立てて保育を進めている。	
	38 指導計画、週案と実際の子どもの状況、興味、関心が合っているか、という観点で自身の保育を評価している。	
	39 『園の教育理念、方針、目標』『自身の指導計画・週案の内容やねらい』を保護者が理解できるように説明することができる。	
	40 日々の保育が適切であったか判断し、適切でなかったと思われる点については、改善に向けた保育を計画し、実践している。	
	41 園長及び副園長・主任教諭は自身の立場を自覚し、他の職員の手本となるよう努めている。	
	42 園長及び副園長・主任教諭は園の運営についてお互いによく協力し、行っている。	

総合平均点数	総合評価（評価項目の達成及び取組状況）
4～3.1	A…十分達成されている
3～2.1	B…達成されている
2～1.1	C…取り組まれているが、成果が十分でない
1～0	D…取組が不十分である

総合評価	総合平均点数
A	3.8 /4

<本年度の幼稚園運営の振り返り>

・総合評価を受けての所感

総合評価Aをいただき嬉しく思います。「先生方が園児一人一人と丁寧に関わっていただいていることが日々伝わってきます。おかげで子供も幼稚園が大好きでたまらないようです。」「先生方からの、この前こんなことがありましたというエピソードが楽しみで、家では見られない新しい子供の一面を知ることができます。」「安全にのびのびと遊んで過ごせる環境を作っていただき、子供が楽しく通っています。」という回答から、保護者の皆様が職員を信頼してお子様を預けてくださり、家庭と幼稚園がつながっていることがわかりました。これからも、子供たちの日々の成長を一緒に喜び合い、家庭と幼稚園が子供たちにとって安心できる大切な場所であるように努めていきたいと思います。園目標「明るく、優しく、元気な子」に向かって、みんなが幼稚園で元気に過ごせるように、子供たちの成長を支えていきたいと思います。

・本年度努力した点、改善した点

友達の良さを認め合って、一人一人の「やりたい！面白い！」をみんなで「いいね！」と共有しながら遊びを進めていきたい。そんな思いから職員みんなで相談して、にしっこの「いいね！」を見つけた時は、声に出してこの言葉とポーズ（👉親指を上に向けてグーで握るグッドサイン）をしよう決めました。この一年間たくさんの素敵な「いいね！」を見つけたことができました。友達同士で「いいね！」ポーズを見せ合い、遠くにいる子にもこのサインでわかり合いました。運動会の種目の中でも、会場にいる皆さんに、子供たち一人一人を言葉とポーズで認めてもらい、一体感の中で自分らしさを出しきることができました。誇らしげな子供たちの輝いた顔が今でも浮かんできます。「いいね！」を視覚化したことで、みんなと思いを共有することができました。

・苦心した点、反省すべき点

「保育園の一時預かりが利用できない土曜日に下の子不可の行事（親子ふれあい参加日・PTA環境整備）があることだけが残念に思っております。」「年長さんがお味噌汁を作ってくれる日に保護者も参加できたら嬉しいなと思います。」「図書館遠足の3歳児のお迎えと小学校の授業参観が被っていた。」というご意見がありました。小学校と行事が被らないようにしっかり確認していきます。保護者様の気持ちに寄り添い、要望に応えられるようにしていきたいと思います。

<来年度の幼稚園運営について（方針、重点内容、改善策等）>

令和7年度は、相手を否定せず友達の「いいね！」を認め合うことができました。「にしっこ」の素晴らしさは、思いを伝え合うことができ自己肯定感が高いところです。そんな「にしっこ」の次のステップは関わりの「わ」（和も輪も含めるため平仮名です）を広げることです。相手の気持ちを思いやって「私もこういうところあるから…そうだよ」と友達に寄り添った共感ができるようになるといいな。18人の「その子らしさ」を発揮させて、自分らしくありながら人（友達や先生や保護者の皆様）とつながるといいな。という願いのもと、思いやりを育み調和がとれるようにして「わ」を広げていきたいと思います。令和8年度は、友達の良さを認め合い「わ」を広げるための仕掛けのある保育をしていきます。